

### 在宅医療・在宅介護の充実で

# 最後まで自宅で暮らしたい

## 平成30年までに地域包括ケアシステムを構築

急速に進む高齢化で医療や介護を必要とする市民は増え続けています。介護入所施設は今でさえ入所待機者がいるのに、今後ますます不足することは明らかです。一方で高齢者の多くが最後まで自宅で暮らしたいと願っています。そこで、市では平成30年をめどに自宅にいて在宅医療・介護を受けられる体制を構築する計画を立てています。しんばる議員は、この計画の進捗状況と課題について質問しました。

**4人に1人が高齢者  
3割が高齢者世帯**

小郡市は県内では比較的高齢化率が低い方ですが、それでも平成28年4月現在で25.5%、4人に1人が65歳以上です。これが平成37年には30.9%になると推計されています。

また、高齢者だけの世帯は増え続け、平成23年に20.6%だったものが平成28年4月には27.6%と全世界帯の約3割にまで増加しています。町内の多くの家が高齢者のみでくらししている状況です。

**6人に1人が要介護  
うち施設入所者は15%**

市内の介護認定者は2409人で高齢者の16%、およそ6人に1人です。その



うち施設に入所している人は15%の373人で、介護度2以下のほとんどの人は自宅にいてデイケアやホームヘルプサービスなどを利用しています。

介護度が進むと医療が必要な人も増え、訪問診療や訪問看護のニーズが高まりますが、その体制作りはまだ始まったばかりです。

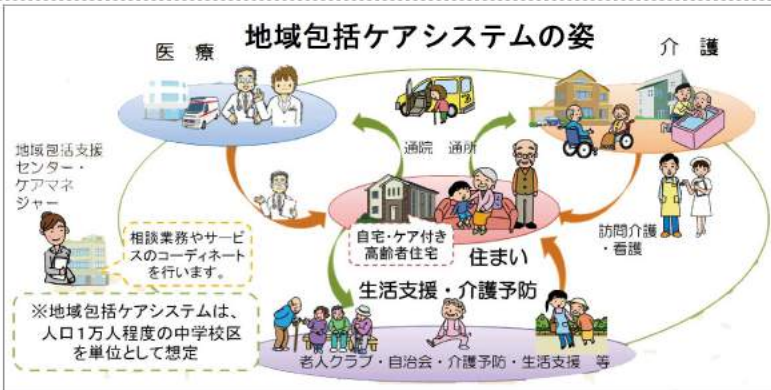
**在宅医療・介護を利用し  
安心して老後を過ごしたい**

自宅で医療や介護を受けながら生活するには、それをサポートする医師や看護師、介護士などがしっかりと連携していくことが必要です。特に、夜間のケアをどうするかは大きな課題です。

ともすれば在宅介護は家族に大きな負担を強い、介護疲れで不幸を招くことさえあります。高齢者夫婦どうしの老老介護の家庭も多く、みんなで支えていく体制を作ることがきわめて重要です。

うち施設に入所している人は15%の373人で、介護度2以下のほとんどの人は自宅にいてデイケアやホームヘルプサービスなどを利用しています。

介護度が進むと医療が必要な人も増え、訪問診療や訪問看護のニーズが高まりますが、その体制作りはまだ始まったばかりです。



**議会からも提言します**

介護・医療はすべての市民の問題です。議会としても保健福祉常任委員会を中心に調査研究し政策提言を行っていきます。今後、小郡三井医師会から話を聞き、先進地への視察調査を計画しています。

小郡市議会議員 しんばる善信後援会だより

# つなぐ

発行  
しんばる善信後援会  
小郡市小郡1304-2  
0942-73-2123





# 不当な差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務付け

## 障がいがあっても共に生きるのが当たり前

### 4月1日、「障害者差別解消法」 施行

4月1日、「障害者差別解消法」が施行されました。しんばる議員は、平成23年9月議会で障害児教育に関わるインクルーシブ教育について質問しました。当時は、世界の潮流に乗り遅れていた我が国の障害者施策が大きく変わり始めた時期で、学校教育法が改正され平成18年にはそれまでの「特殊教育」から共に学び共に生きるインクルーシブ教育である「特別支援教育」に転換し、平成23年には障害者基本法が改正され「可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒とともに教育を受けられるよう配慮する」とされた時期でした。その後、段階的に条件整備が進められようやくこの度、障害者差別解消法が施行されたのです。そこで、しんばる議員は、この法律が小郡市や学校に義務付けている障害を持つ人に対する「不当な差別的取扱いの禁止」「合理的配慮の提供」とは何かを質問しました。

#### 「入学を認めない」は不当な差別的取扱い

この法律では、障害があることで正当な理由もなくサービスの提供を拒否したり、制限したりするような行為が禁止されます。たとえば、「地元の小学校に入学を希望しているのに、障害を理由に入学を認めないこと」や「電車内が混雑しているという理由で車いすの人の乗車を拒否すること」などです。この他これまで障害者が我慢を強いられてきた多くのことが不当であるとされました。

#### 合理的配慮の提供とは？

障害がある人が障害のない人と対等に社会生活を営むうえで生じる「壁」を取り除くことです。具体的に「学校での移動や学習を

支援する人材の配置」や「役所などで知的障害・発達障害の人に、簡単な言葉や図を使った資料でわかりやすく説明すること」などそれぞれの障害に対応した配慮が求められています。



#### 足りない学校支援員



ただ、そのための予算措置はこれからというものがほとんどで、「負担が重すぎない範囲での対応」となっています。今後は、この範囲をどれだけ広げていくかが課題です。

現在、市内の小中学校で特別支援学級に在籍する子どもは127人、普通学級に在籍で障害のある子どもは160人います。小郡市教育委員会はこの子どもたちの支援に28人の支援員を配置していますが、まだまだ足りません。一人ひとりの子どもへの障害に応じ、きめ細かく対応するためにはさらに支援員を増やしていく必要があります。



## 益城町ボランティアに行ってきました

# 熊本地震、被害の大きさに言葉なし

5月26日、4月の熊本・大分地震で大きな被害を受けた益城町にボランティアに行ってきました。8名の議員と市社会福祉協議会職員2名の計10名で朝7時に出発、8時半にボランティアセンター到着。既に大勢のボランティアが並んでいました。私たちは災害廃棄物集積場に派遣され、壊れた屋根瓦、コンクリートブロック、木材、割れたガラス、家電品、布団など様々な廃棄物を種類別に分別する作業を行いました。

### いたるところに壊れた家

ボランティアセンターから市街地を通って廃棄物集積場へ向かう途中、1階がペちゃんこにつぶれた家、壁が崩れ柱が折れた家などが次々に目に飛び込んでき



ました。テレビニュースでは分からない悲惨な光景です。そんな中、家周りを片付ける高齢の人たちの姿がありました。これから先どうしたものか途方に暮れ、言いようのない不安のただ中におられるのではないかと想像しました。



### 未だ手のつかぬ倒壊家屋

「危険」と書かれた赤い紙が倒壊した家の壁に貼られていました。これは、住民の安全確保のため、被害の状況を調査し危険の程度を判定するものです。これとは別に罹災証明のための被害調査がありますが、人手不足から調査が進まず、調査終了まで取り壊せない状況が続いています。



### 息の長い支援が必要

被災地では、その後も余震が頻繁に起き、危なくって家に帰れないと言います。さらに、追い打ちをかけたように大雨が続く被災者の心身の疲れが心配されます。小郡市は震災後、救済物資の支援や消防団による炊き出し支援を行ってきました。今後復興には長い期間が必要で、小郡市としても支援金や人材派遣、住宅提供などできる限りの支援を行うよう要請しました。





この1さつ



非正規公務員という問題  
上林 陽治

# しんばる善信議員 保健福祉常任委員長に就任 5月臨時議会で委員会等改編

## 2回めの保健福祉委員長

選挙から2年たち議員任期の後半に入るため5月臨時議会で常任委員会等の役職の改編がありました。

しんばる議員は、今回保健福祉常任委員長に選出されました。しんばる議員は2期目に一度保健福祉常任委員長を経験しており2回目となります。

## 課題に果敢に挑む決意

現在、市として子育て支援や高齢者福祉、在宅医療・介護、障害者福祉、国民健康保険財政の健全化など多くの課題を抱えるなか、市民の代表として果敢に取り組む決意です。

アベノミクスで雇用が増えたと言っていますが、実態は非正規雇用が全労働者の4割と大幅に増え、正規雇用がどんどん減り続けているのです。

このことは小郡市役所や学校など公務員の職場でも

## 報告1

### 「ヘイトスピーチ意見書」ができました

昨年9月議会で、しんばる議員提案の「ヘイトスピーチに関する意見書」が全員一致で採択され国会と国に提出されました。全国のこうした動きに呼応して国会は「ヘイトスピーチ対策法」を制定し、6月3日に施行されました。法成立の効果はすぐに表れ、6月5日には川崎市で行われようとしたヘイトデモが中止となり、6月19日の福岡天神でのデモでは、直接的差別表現を控えていたとの報道がありました。

## 報告2

### 隊員募集のための18歳名簿一覽提供をやめました

前号でお知らせしたように、これまで小郡市は自衛隊の要請に応じ隊員募集のための18歳市民の個人情報を一覧表にして提供してきました。これに対し、しんばる議員は個人情報保護法上問題であり市の個人情報保護審議会に諮るよう求めました。審議会では、問題ありとして市に対し提供をやめるよう提言し今後取りやめることになりました。

例外ではありません。現在市の嘱託職員は196人、賃金は月額14万5千円で、ほとんどの人はボーナスなしです。

この本には、役所や学校で働く非正規公務員の置かれた厳しい実態が書かれています。

います。年度ごとの契約の危機にさらされ、将来への希望も持てないでいます。著者は、非正規公務員の処遇改善は、公共サービスの質を向上させる上からも喫緊の課題であると指摘しています。

聞かにも真剣みが増します。かたや都知事の舛添氏は公費で出張です。この人には市民の税金といういわば他人の懐銭の世話になってるという自覚が著しく欠落しているようです。

(よし)

## 議会いほれ話

舛添さん、そりやあんまりです

東京都の舛添知事が豪華出張と政治資金の公私混同問題などで、辞職に追い込まれました。ロンドン・パリ出張では、1泊19万8千円の部屋に泊まり20人で5千万円以上使ったというのですから驚きです。

それに比べ私の出張はと言えばこうです。5月に東京明治大学で開催の「日本自治創造学会」に1泊2日で参加しました。政務活動費の無い小郡市議会なので、旅費・参加費およそ7万円は全部自腹です。でも自腹をいたためっているので話を聞くにも真剣みが増します。かたや都知事の舛添氏は公費で出張です。この人には市民の税金といういわば他人の懐銭の世話になってるという自覚が著しく欠落しているようです。